2014 春季 創価大学

2014年度 日本語教育学会春季大会予稿集 ■ 2014(平成26)年5月31日・6月1日

公益社団法人日本語教育学会 ■ The Society for Teaching Japanese as a Foreign Language

NKG

日本語教育学会大会委員会

日本語母語話者はどのような複合動詞をよく使用しているか

―大規模コーパスと国語教科書の調査結果を通して―

何 志明（香港中文大学）

1 はじめに

日本語の複合動詞は，学習者にとって習得が難しい項目の1つであると言われている。しかし，日本語教育の現場では積極的に複合動詞が導入されているとは言えない。その原因の一つは，膨大な数の複合動詞をすべて教えることは難しく，また，どれをシラバスに優先的に取り入れるべきかわからないからであろう。本研究は，これまであまり検討されてこなかった「日本語母語話者がどのような複合動詞を使用しているか」に注目し，コーパスと教科書のデータを用いて，よく使用されている複合動詞を特定することを目指す。

2 先行研究

松田(2004:2)では,「複合動詞の結合条件」、「単純動詞と複合動詞の使い分け」、「習得方法」の3点が学習者にとって習得の困難点であると述べている。何(2012)では，複合動詞導入の優先順位を提案するために，BCCWJモニター公開データ2009年度版及び現在市販されている中上級日本語教科書6冊を利用して複合動詞の出現頻度の調査を実施した。しかし,調査対象となったデータの量に制限があったため,今後も継続調査を行う必要がある。

3 本研究の目的

本研究では，何(2012)の調査を継続して進め，現代の言語資料である大規模コーパス及び国語教科書を通して複合動詞の使用状況を考察する。

4 研究方法

4.1 BCCWJの中納言

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所が開発した現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)の「中納言」を利用し，現代日本語の複合動詞の使用状況を明らかにする。石井(2007)では複合動詞の数は約2,500語であると述べているが，本研究ではその約2,500語の複合動詞をコーパス「中納言」で調査した結果，出現頻度の高かったものをリストアップした。検索の方法は次の通りである。

例：「思い出す」を検索する場合

①「中納言」の検索画面に入る。②「短単位検索」を選択。③「語彙素」を選択

④「思い出す」を漢字仮名交じりで入力。⑤文中の区切り記号を選択(→なし)。

⑥前後文脈の数を選択(→「20」を選択)。⑦検索対象(固定長・可変長・両方)を選択(→「固定長」を選択[注])

【列の表示】(⑧～⑩の場合，下線のあるものは本研究で選択された項である)

⑧形態論情報

「前文脈・キー・後文脈・語彙素読み・語彙素・語彙素細分類・語形・品詞・活用型・活用形・書字形・発音形出現形・語種・原文文字列」から表示したい情報を選択。
⑨コーパス情報
「サンプル ID・連番・レジスター・コア・固定長・可変長」から表示したい情報を選択。
⑩出典情報
「執筆者・生年代・性別・ジャンル・書名／出典・副題／分類・巻号・編筆者等・出版者・出版年」から表示したい情報を選択。

「中納言」は3つのサブコーパス，すなわち，書籍・新聞・雑誌が含まれている生産実態（出版）サブコーパス，図書館の蔵書が含まれている流通実態（図書館）サブコーパス，白書・議事録・インタネット資料などが含まれている非母集団（特定目的）サブコーパスで構築されている。本研究では，母集団(生産実態（出版）サブコーパス，流通実態（図書館）サブコーパス)及び非母集団（特定目的）サブコーパス)のデータをすべて調べ上げ，その合計を複合動詞「思い出す」の出現頻度として記録する。

図1　「中納言」の構成(中納言のホームページより)

母集団を検索する際，「出版・新聞，雑誌，書籍，図書館・書籍」を，非母集団を検索する際，「特定目的・白書，ベストセラー・知恵袋，ブログ・法律，国会会議録・広報誌・教科書・韻文」を選択する。

4.2　小中高校の国語教科書

文部科学省の教科書目録から，平成24年度(2012年)に使用されている小中高校の国語教科書(小学校58冊，中学校17冊，高校66冊，計141冊)における複合動詞を調べ、出現頻度の高いものを特定した。小学校国語教科書58冊から延べ語数11,017語(異なり語数1,517語)，中学校国語教科書17冊から延べ語数11,724語(異なり語数1,915語)，高校国語教科書(総合，現代文)66冊から延べ語数41,676語(異なり語数3,730語)の複合動詞を抽出した。抽出は，複合動詞を抜き出し，一つ一つエクセルに入力する方法で行った。抽出する際には，図，挿絵，写真の説明，また現代文以外の文章(例えば，『舞姫』(森鷗外)や『漫罵(まんば)』(北村透谷)のような文語体の文章)，漢文，古典は，調査から除外した。

5　結果と分析

まずBCCWJの中納言による調査結果から，出現頻度1位から200位までの複合動詞を選び出した。紙面の関係で，出現頻度30位以降のものを一部省略して下記の表1に示す。

表１　中納言で調査した結果，出現頻度が最も高かった複合動詞 200 語

複合動詞	固定長の数	固定長順位	複合動詞	固定長の数	固定長順位
繰り返す	1605	1	飛び込む	437	26
思い出す	1472	2	話し合う	437	26
見付ける	1357	3	引き上げる	434	28
見詰める	1203	4	取り戻す	433	29
出掛ける	1006	5	引き起こす	427	30
取り組む	920	6	成り立つ	372	35
受け入れる	909	7	持ち込む	346	40
出会う	880	8	見守る	323	45
立ちあがる	868	9	押し付ける	312	50
取り上げる	860	10	辿り付(着)く	296	54
受け取る	844	11	引き継ぐ	281	61
振り返る	832	12	打ち込む	276	65
落ち付く	774	13	駆け付ける	270	70
取り出す	765	14	持ち上げる	249	80
し払う	667	15	立ち止まる	231	90
生み出す	653	16	思い浮かべる	213	99
見成す	652	17	引き付ける	195	109
引き続く	640	18	生き残る	179	121
引っ張る	571	19	起き上がる	161	130
作り出す	570	20	打ち上げる	151	141
付き合う	522	21	追い詰める	140	150
取り入れる	513	22	指(差)し上げる	132	160
飛び出す	509	23	見合わせる	125	171
申しあげる	492	24	問い掛ける	122	181
結び付く	440	25	飛び下りる	113	196

次に，それぞれの国語教科書に収録されている複合動詞の出現頻度を集計し，出現頻度１位から 200 位までの複合動詞を選び出した。BCCWJ の中納言と小中高校それぞれの教科書の４種類の言語資料すべてに現れる複合動詞を表２に示す。

表２　中納言及び小中高校の国語教科書に出現する複合動詞 84 語(出現頻度 200 位まで)

V1(読み)	V2(読み)	複合動詞	固定長の数	固定長順位	小学校順位	中学校順位	高校順位
くり	かえす	繰り返す	1605	1	16	10	4
おもい	だす	思い出す	1472	2	3	7	2
み	つける	見付ける	1357	3	2	4	6
み	つめる	見詰める	1203	4	15	5	3
で	かける	出掛ける	1006	5	4	9	17

とり	くむ	取り組む	920	6	28	15	27
で	あう	出会う	880	8	10	6	5
たち	あがる	立ちあがる	868	9	24	28	15
とり	あげる	取り上げる	860	10	14	11	10
うけ	とる	受け取る	844	11	29	24	11
ふり	かえる	振り返る	832	12	5	2	7
おち	つく	落ち付く	774	13	44	51	13
とり	だす	取り出す	765	14	23	19	23
うみ	だす	生み出す	653	16	87	23	12
ひっ	ぱる	引っ張る	571	19	8	65	88
つくり	だす	作り出す	570	20	78	29	8
つき	あう	付き合う	522	21	169	75	57
とり	いれる	取り入れる	513	22	24	26	56
とび	だす	飛び出す	509	23	20	35	72
もうし	あげる	申しあげる	492	24	120	62	37
むすび	つく	結び付く	440	25	29	25	21
とび	こむ	飛び込む	437	26	38	51	38
はなし	あう	話し合う	437	26	1	1	1
ひき	だす	引き出す	424	31	120	50	46
でき	あがる	出来上がる	406	32	36	47	25
み	あげる	見上げる	405	33	33	32	21
うけ	とめる	受け止める	379	34	48	29	33
なり	たつ	成り立つ	372	35	169	39	16
くみ	あわせる	組み合わせる	371	36	9	20	76
ひき	うける	引き受ける	361	37	129	104	77
おい	かける	追い掛ける	358	38	19	58	72
み	かける	見掛ける	355	39	64	59	70
さし	だす	差し出す	343	41	61	47	80
とり	つける	取り付ける	326	44	76	147	111
み	まもる	見守る	323	45	64	78	95
つくり	あげる	作り上げる	320	46	107	62	34
し	あげる	し上げる	317	47	129	118	144
よび	かける	呼び掛ける	314	49	26	69	53
おし	つける	押し付ける	312	50	185	98	78
み	なおす	見直す	309	51	40	21	92
おもい	つく	思い付く	302	53	34	37	44
たどり	つく	辿り付(着)く	296	54	71	68	58
はなし	かける	話し掛ける	285	57	42	65	39
ふり	むく	振り向く	282	59	31	80	64
つっ	こむ	突っ込む	279	62	71	118	159
はいり	こむ	はいり込む	278	63	120	140	46
おもい	こむ	思い込む	277	64	169	90	41

むすび	つける	結び付ける	273	66	48	78	72
つけ	くわえる	付け加える	272	68	52	26	28
のみ	こむ	飲み込む	270	70	64	110	41
よみ	とる	読み取る	266	72	5	3	9
とり	まく	取り巻く	261	74	169	167	80
もち	だす	持ち出す	261	74	185	84	45
のぞき	こむ	覗き込む	255	76	64	98	43
み	まわす	見回す	254	78	37	80	32
もち	あげる	持ち上げる	249	80	40	167	126
いい	かえる	言い替える	245	83	48	35	20
うけ	つぐ	受け継ぐ	240	84	129	39	188
にげ	だす	逃げ出す	238	85	93	110	139
み	おろす	見下ろす	235	87	103	98	49
のり	こえる	乗り越える	232	89	120	71	72
たち	どまる	立ち止まる	231	90	56	29	31
み	わたす	見渡す	222	95	115	64	79
とおり	すぎる	通り過ぎる	220	96	61	190	109
おもい	うかべる	思い浮かべる	213	99	18	37	34
すい	こむ	吸い込む	213	99	78	87	152
かき	こむ	書き込む	211	103	39	47	92
いい	きる	言い切る	208	104	129	83	106
きり	とる	切り取る	200	105	129	129	146
うかび	あがる	浮かび上がる	196	108	129	69	61
ひき	つける	引き付ける	195	109	57	57	40
ぬけ	だす	抜け出す	187	114	169	190	122
つき	だす	突き出す	173	124	185	190	123
むき	あう	向き合う	173	124	185	75	102
あて	はまる	当て嵌まる	155	135	34	98	96
きき	とる	聞き取る	154	136	64	13	61
ひき	かえす	引き返す	143	147	185	98	107
おき	かえる	置き替える	142	149	150	44	52
さし	あげる	指(差)し上げる	132	160	100	84	82
かたり	あう	語り合う	129	165	185	110	188
うつし	だす	写し出す	125	171	143	90	100
み	あわせる	見合わせる	125	171	87	129	146
くみ	たてる	組み立てる	124	175	54	18	54
とい	かける	問い掛ける	122	181	169	129	144

上記のデータから，出現数の多い前項動詞(V1)と後項動詞(V2)はそれぞれ下記の通りである(括弧の中の数字は個数である)。

【前項動詞(V1)】見～(10)，取り～(6)，思い～(4)，引き～(4)，受け～(3)
【前項動詞(V2)】～出す(12)，～込む(8)，～上げる(7)，～掛ける(6)，～合う(5)，
～付ける(5)，付く(4)，～取る(4)，上がる(3)

表2の結果を何(2012)の中上級日本語教科書の複合動詞の調査結果と比較したところ，次のことがわかった。6種類の中上級日本語教科書に収録されている複合動詞252語のうちの53語が表2にも入っている。つまり，表2にある84語のうち53語，約63%の複合動詞が中上級日本語教科書に含まれているということである。

6 今後の課題

本研究は，膨大な言語資料，つまり大規模コーパス及び現在日本の小中高校で使用されている国語教科書を通して現代日本語複合動詞の使用について調査を行い，日本語母語話者なら子供から大人まで使用するというだけでなく，その中でもとりわけ出現頻度が高いものを抽出することができた。いうまでもなく，学習者にこれらだけを教えれば，複合動詞の習得や指導に関する問題が即座に解決できるというわけではない。しかし，今まで膨大な数の複合動詞のうち，一体どれから教えたらよいのかという問題に対して，本研究の結果は一定の答えを示すことができたのではないかと考える。今後，日本語母語話者なら誰でもよく使うこれらの複合動詞を優先的に導入することを目指したシラバスや教材を，引き続き開発していきたい。

注：固定長はランダムに選んだ文字を基準として，1,000文字を抽出するサンプルである。この1,000文字は，句読点や符号は含まず数える。サンプルの先頭や末尾は文の途中になるが，検索の際に文脈がきちんと表示されるように，入力は文単位で行う。また，数える対象にはしない句読点や符号もそのまま入力する。抽出比が正確であることから語彙調査，文字調査などの統計的分析に向いている。(BCCWJのサンプリングのホームページ【固定長サンプル】
＜http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/sampling.html＞より)

参考文献

石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』東京：ひつじ書房
何志明（2012）「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』及び中上級日本語教科書における複合動詞の出現頻度」『日本語／日本語教育研究』vol.3，pp.261-276．東京：日本語／日本語教育研究會
松田文子（2004）『日本語複合動詞の習得研究―認知意味論による意味分析を通して―』東京：ひつじ書房

Acknowledgment
This research is supported by the "General Research Fund for 2011/2012", Research Grants Council, Hong Kong (Project title："The Usage of Japanese Compound Verbs", Project code：445811).